

審判業務の主な流れ

(サービスジャッジの記述については、学校対抗は準決勝、個人対抗は準決勝より適用する)

○次回試合分の主審（一般）及び線審・得点係（高校生）は、競技役員（審判，補助員）控室に待機する。

○主審は審判主任の指示により、本部シャトル係のところへ交代の審判員も含め全員で向かう。

サービスジャッジ・プラカードをもつ線審①②と得点係（線審③④）は、担当試合番号のコートに整列する。



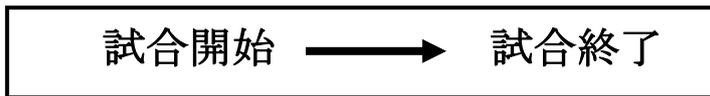
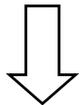
【進行係の指示に従い、放送係が試合のコールを行う】

サービスジャッジは8月6日、9日のみ

主 審	シャトル委員から必要物品の入った審判かごを受け取り、担当試合番号のコートにつく。試合のコールがされる前に、コートについておくこと。
サービスジャッジ	担当するコートにつく。主審からシャトルを受け取る。
線審①②	担当するコートにつく。プラカードを設置する。
得点表示係・線審③④	担当するコートにつく。得点版に学校札、選手札を設置する。



主 審	○サービスジャッジ・線審及び選手の集合状況（オーダー・氏名）を点呼で確認し、ユニフォームの点検、持ち物等の確認を行う。
-----	---



○主審を先頭にプラカード（線審）・勝者（勝者校）・プラカード（線審）・敗者（敗者校）・得点表示の順で退場する。



主 審	審判かごの内容をチェックする。(チェックリストあり) チェック後、シャトル委員に審判かごを渡す。 記録整理場所 で審判用紙を整理、タブレット用PCより印刷されたスコアシートをレフェリーまたはデピュティーレフェリーから検認（サインを貰う）を受ける。タブレットに不具合が生じた場合、予備のスコアシートに記入し、レフェリーまたはデピュティーレフェリーから検認（サインを貰う）を受ける。レフェリーチェック終了後、競技本部の競技進行主任に提出する。 控室へ戻り、次回担当する試合番号を審判主任に確認してから終了。
サービスジャッジ	レフェリーのところへ主審と同行する。 控室へ戻り、次回担当する試合番号を審判主任に確認してから終了。
線審①, ②	退場後（フロアから外に出たところで）、敗者（チーム）にプラカードを持ち帰るかを質問し、持ち帰りの希望がある場合はその場で手渡す。その後コート整備を行う。控室へ戻り、次回担当する試合番号を、線審得点委員に確認してから終了。
得点表示係 線審③, ④	試合終了後、選手が退場しコートマット上から出たら、得点版の学校名、選手名をはずし、コート整備を行う。 控室へ戻り、次回担当する試合番号を、線審・得点委員に確認してから終了。

審判上の注意

- ・審判員は、「競技規則」、「大会運営規程」及び「公認審判員規程」に精通し、試合においては、自覚と責任を持って真摯に取り組んでください。
- ・審判員の判定は、その審判員の責任とするすべての事実に関して最終のものであるので、厳正に判定を行ってください。
- ・審判は、主審1名、線審2名、得点表示係1名で行います。
- ・学校対抗は準決勝以降にサービスジャッジを配置し、線審4名で行います。
- ・個人対抗は準決勝以降にサービスジャッジを配置し、線審4名で行います。

【主 審】

1. 「試合開始前」

- (1) 審判主任の指示により本部席に行き、シャトル委員より、スコアシート・シャトル・警告カード等の入った「審判かご」を受け取る。その後、担当コートにつく。(選手入場はありません)
- (2) ネットの両側とポストの間に隙間がないか、確認する。ネットスケールによる点検は、必要に応じ、マッチ前の練習前に行う(複1の時は線審に手伝ってもらう)。複2からは審判台から降りる審判員と、次のマッチのため交代する審判員とで行う。交代し休憩する審判員は、その点検後速やかに控え場所へ移動し待機する。各大会日初回戦の点検は、審判主任の指示により公式練習時間終了後に行う。
- (3) 対戦者名表示とオーダー対戦表を得点表示係に渡し、得点表示板への掲示を依頼する。
- (4) 学校対抗の場合は、コート入場整列後直ちに「ただいまより〇回戦(準決勝・決勝)〇〇県〇〇高校対△△県△△高校の対戦を行います」(個人対抗の時は個人名を言う)とアナウンスして挨拶をさせる。
- (5) トスは「コイン」で行う。(コインは各自で準備してください。)
- (6) トスの前に選手の名前の確認と服装チェック(ゼッケンは4点止め)・コートサイドへの持ち物等も確認する。
- (7) 公式練習は、挨拶・トスが終わった後に行い、主審が審判台に座ってから時間を計測し始めること。主審が審判台に座ってから「(ラブオール)プレー」までが3分間である。
(練習時間は、学校対抗では試合ごとに同時に3分間、個人対抗は同時に3分間。ただし、個人対抗単では対戦相手と練習する)
- (8) トス後、エンドが決まったら、必要に応じて得点表示係に知らせる。
- (9) 選手紹介のアナウンスを正しく行い、ジェスチャーを忘れずに心がける。
- (10) 正しくスコアシートを入力する。また、マッチで使用したシャトルの個数も記録する。
- (11) ゲーム開始時やゲーム中、得点表示板の得点が正しいか、また正しいサイドを示しているかチェックする。
- (12) タブレット用PCに不具合が生じた場合、それ以降のゲームについてはスコアシートに記入する。

2. 「試合中」

- (1) 正しい審判用語を使用する。
- (2) 判定は迅速かつ厳正に行うが、間違ったときはそれを認め、謝り訂正する。
- (3) 他の審判員の立場を尊重し、信頼関係を確立する。線審の判定は、アイコンタクトで毎回必ず確認する。
- (4) 審判員の判定に「疑問」があるときは、学校対抗では、当該プレーヤーと監督のみ、個人対抗では当該プレーヤーのみの「質問」は受けるが、「抗議」や「異議」は受け付けない。
- (5) 必要に応じて、シャトルの交換を許可する。
- (6) 試合中に、シャトルが不足しそうな場合は、主審、サービスジャッジが本部席に向かってシャトルの筒を振り知らせる。
- (7) サービスジャッジがつくときは、サービス時、レシーバーを特に注目する。
- (8) サービスジャッジよりフォルトのコールがされたときは、「サービスフォルトコール〇〇」とコールする。
レシーバーのフォルトは「フォルトレシーバー」とコールする。
- (9) サービスコートの間違ってスタートしたラリーは止めることができない。間違ったラリーの点数もそのまま加算され、サービスコートの間違いだけを直す。

- (10) インプレーで、シャトルがラケットに接触して、相手プレーヤーサイドに向かわなかったときはフォルトとする。(フォルトとコールする)
- (11) 競技規則に違反しているかどうか分からなかった場合、「フォルト」をコールせずに、そのままゲームを続行させる。
- (12) すべてのゲーム中に一方のサイドのスコアが11点になったと同時に、インターバル60秒間の計測を始める。
- ① ファイナルゲーム中のインターバルのみチェンジエズが行われる。
チェンジエズは、「インターバル」のコールの後、速やかに行わせる。
 - ② インターバルでは、どちらのサイドも2人まで競技区域に入ってきてもよい。
これはエンドを替えた後に入り、主審が、「(コート番号)20秒」とコールしたら、コートから離れるものとする。
 - ③ 残り時間のコールは、「○コート20秒」(2回繰り返す)とする。
 - ④ 11点のときにゲームを再開する際は、スコアをコールした後に「プレー」とコールする。
- (13) 各ゲームの間のインターバルは、第1・第2ゲーム終了の「ゲーム」をコールすると同時に、インターバル120秒間の計測を始める。
- ① インターバルでは、どちらのサイドも2人まで競技区域に入ってきてもよい。
これはエンドを替えた後に入り、主審が、「(コート番号)20秒」とコールしたら、コートから離れるものとする。
 - ② 残り時間のコールは、「○コート20秒」(2回繰り返す)とする。
 - ③ インターバルで片方のサイドが遅刻した場合、遅刻したサイドにイエローカードを提示してそのサイドをフォルトとし、相手に1点が与えられる。両サイドが遅刻した場合、1オールとなる。
どちらもレフェリーを呼んで報告する。
- (14) インターバル中に選手がシャツを着替えたときは、プレー再開前に背面表示の有無を確認する。
- (15) 競技規則第16条(プレーの継続、不品行な振舞い)の違反は特に注意する。
違反行為が行われたときは違反したサイドのプレーヤーに警告し、再度違反したときはフォルトとし、レフェリーを呼んで報告する。その内容はスコアシートの違反をした選手の欄に記入する。
- (16) 汗拭き・給水については、主審の判断で許可する。
なお、休息をとるための行為等がある場合は止めさせる。(競技規則第16条の違反を適用する。)
- (17) インプレー中にコート外から助言を受けることや、インターバルを除き主審の許可なくコートを離れないよう注意する。(ラケット交換・靴紐の締めかえなど。インプレー中のラケット交換は可)
- (18) インプレー中でなければアドバイスは認められるが、インプレー中にコーチによりプレーが中断させられた、あるいは、相対するサイドのプレーヤーが注意をそらされたとき主審が判断した場合はレットとする。
その後、レフェリーを呼んで報告する。
- (19) ケガや病気の場合には、慎重かつ適切に処理する。
(P.66【試合中の怪我・事故などの取り扱いについて】参照)
※緊急に医師等による治療が必要な重大なケガや事故が発生した場合は、速やかにレフェリーに報告し、指示を仰ぐこと。なお、その際コートに入れるのは、レフェリーだけである。この間、インプレーでなくなった時からの経過時間を計測しておくこと。
- (20) 主審の判断で、線審が明らかに間違った判定をしたと確信した場合、主審は次のコールをし、訂正することができる。
- ① インのとき:「コレクションイン」
 - ② アウトのとき:「コレクションアウト」
- (21) コート整備が必要と判断したときは、最寄りの線審に整備を指示する。
- (22) 警告・フォルトの処置、サービスコートの間違いを訂正したときは、スコアシートに記入する。

3. 「試合終了後」

- (1) 勝敗決定後の審判台に上がったまま、選手との礼の後、マッチ終了時のコールをする。
- (2) 使用済のシャトルは、未使用のシャトルと合わせて「シャトル入れ用かご」に入れる。

- (3) 整列時には、荷物を足元に置かせて並ばせる。(挨拶の後すぐに退場できるように、荷物をまとめさせてから整列させる)
- (4) 対戦者名表示とオーダー対戦表を得点表示係より受け取り、「審判かご」に入れる。
- (5) 学校対抗では、「ただいまの〇〇高校対△△高校の対戦は、□対□で△△高校の勝ちです。」と対戦結果を紹介し、その後挨拶をさせる。個人対抗の場合は、「ただいまの〇〇高校Xさんと△△高校Yさんの対戦は、○対○で△△高校Yさんの勝ちです。」と結果を紹介する。
- (6) 学校対抗では、勝者チームに次のオーダー用紙を渡す。

4. 「退場後」

- (1) 記録整理場所において、タブレット用PCから印刷されたスコアシート・結果表(学校対抗戦のみ)を担当した審判員全員で記入した後、レフェリー又はデピュティレフェリーから検認(サインを貰う)を受ける。検認を受けたスコアシートと結果表(学校対抗戦のみ)を本部席の競技進行主任に提出する。
- (2) 競技主任に提出後、主審控室に戻り次の指示の申し送りを確認する。

【サービスジャッジ】(学校対抗：準決勝以降、個人対抗：準決勝以降)

1. 「試合開始前」

- (1) ポスト及びネット等の点検整備を行う。
- (2) ネットの両側とポストの間に隙間がないか、ポストにしっかり結ばれているか確認する。
- (3) 主審の指示により、公式練習時間(学校対抗では試合ごとに同時に3分間、個人対抗は同時に3分間。ただし、個人対抗単では対戦相手と練習する)を計測する。
- (4) 線審と得点表示員の役割と配置に精通する。
- (5) 必要に応じ主審と協力してネットの高さの計測・調整を練習時間(各マッチ前3分間公式練習)前に行う。

2. 「試合中」

- (1) サービスの際、サービスに関するフォルトが起きたときには、直ちに「フォルト」とコールし、主審に何のフォルトであるかを必ず合図する。
- (2) シャトル交換は、主審の許可を得て行う。シャトルはサービス権を持つ選手に渡す。
- (3) 試合中に、シャトルが不足しそうになった場合は、本部席に向かってシャトルの筒を振り知らせる。
- (4) インターバル(120秒以内)の際には、インターバルボードをネット中央下に置き、観客によく見えるようにする。設置した後は、主審右手にて待機する。『Oコート20秒』のコール、あるいは主審の指示により速やかにインターバルボードを撤収し、位置へ戻る。

3. 「試合終了後」

- (1) 各試合終了後は、起立して当該プレーヤー全員と礼を交わす。
- (2) 退場前に「未使用」及び「使用済」のシャトルを主審に返却する。

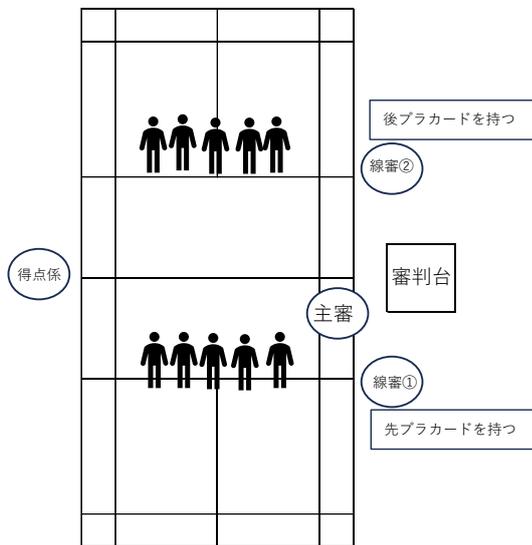
4. 「退場後」

主審と共に記録整理場所において、スコアシート・結果表(学校対抗戦のみ)を整理し、レフェリーまたはデピュティレフェリーの元へ同行する。

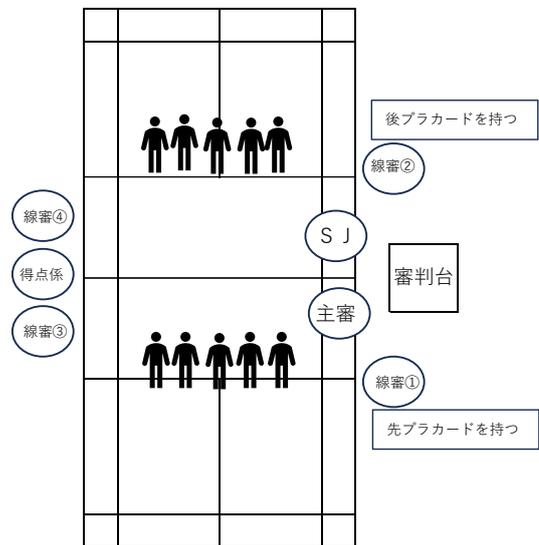
【線 審】

1. 「試合開始前」

- (1) 審判担当表及びタイムテーブルに従い、担当の試合及び時間等を確認しておくこと。
- (2) 得点表示系の線審と控えの線審は得点表示に学校名・選手名の札を設置する。控えの線審は主審がネットの高さを点検する際の補助を行う（学校対抗の入場直後のみ）。ただし、サービスジャッジがいる場合はサービスジャッジと主審とで行う。業務が終わった控え線審は控え場所で待機する。
- (3) 準備を終えたら、所定の位置で着席して待つ。



線審 2 名体制



線審 4 名体制

2. 「試合時」

- (1) 担当ラインを明確に知り、責任を持って判定する。「コレクションコール」されないようにする。
- (2) 合図を正しく行う。
 - ① インのとき：無言で、手のひらを下に向け、右手（片手）でその担当ラインを指す。
 - ② アウトのとき：シャトルがラインの外に落ちたときには、主審にはっきりと見えるように両腕を水平に開き合図する。（この時「アウト」のコールを大きな声で行う）
（このとき、手のひらはコート側に向ける。 ×手のひらが天井側を向く ×腕を曲げる）
 - ③ シャトルの落下点が見えないとき：両手で目を覆う。
- (3) 次の点に注意する。
 - ① シングルス・ダブルスで椅子の位置を変える。
 - ② 常に試合に集中し、選手を追うのではなくシャトルから目を離さない。
（シャトルがコート面につくまでしっかりとシャトルを見る。）
 - ③ 椅子にあまり深く腰掛けないで、背筋を伸ばし、両足は床面に必ずつけて、担当ラインの延長線上でシャトルを見る。両手は大腿付け根付近に置く。
 - ④ 正確な判定をする。（速く飛んできたシャトルに対して、あわてて合図を示す必要はない。
シャトルの落下点をしっかり確認し、インかアウトかを判断してから合図を示す。）
 - ⑤ イン・アウトの判定は、自信を持って行う。（首を傾げたり舌を出したりすることは、絶対に行ってはならない。間違った判定を示した場合は、素早く合図をやり直す。観客や選手の言動に感わされることなく判定する。）
 - ⑥ シャトルがプレーヤーの陰になって、落下点が見えなかったということがないように、体を動かしてシャトルを見る。それでも見えなかったときは、その旨を主審に合図する。（(2)③）
 - ⑦ 合図は、主審が確認するまで続ける。主審とアイコンタクトで毎回必ず確認する。
 - ⑧ シャトルがプレーヤーに当たったときなど、主審が判定する前にコールまたは合図をしてはならない。
 - ⑨ 主審の指示に従って、インターバルの際には線審全員でコート上の整備を行う。

それ以外に、コート上が汗で滑ったりごみが落ちていたりしたら、主審の指示により素早くコート整備を行う。

⑩ ゲーム間では、主審の指示により両サイドの選手の所在を確認する。(更衣室での着替え等)

また、個人対抗ではプラカードの入れ替えを行う。(学校対抗は入れ換えない。)

※ 選手が各ゲームの開始に遅れないようにするためである。

3. 「試合終了後」

(1) 各試合終了後の挨拶時は、勝者(勝者校)・敗者(敗者校)のプラカードを持ちそれぞれの先頭に立って一度退場する。退場後、必要に応じてコートに戻りコート整備を行う。

椅子の位置及び注意事項と線審担当ライン

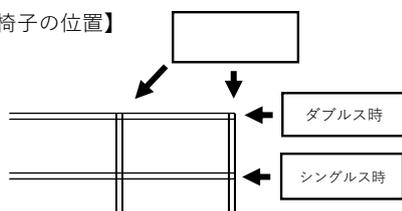
1. 線審の椅子の位置

(1) ダブルスとシングルスでは、必ず椅子の位置を変える。

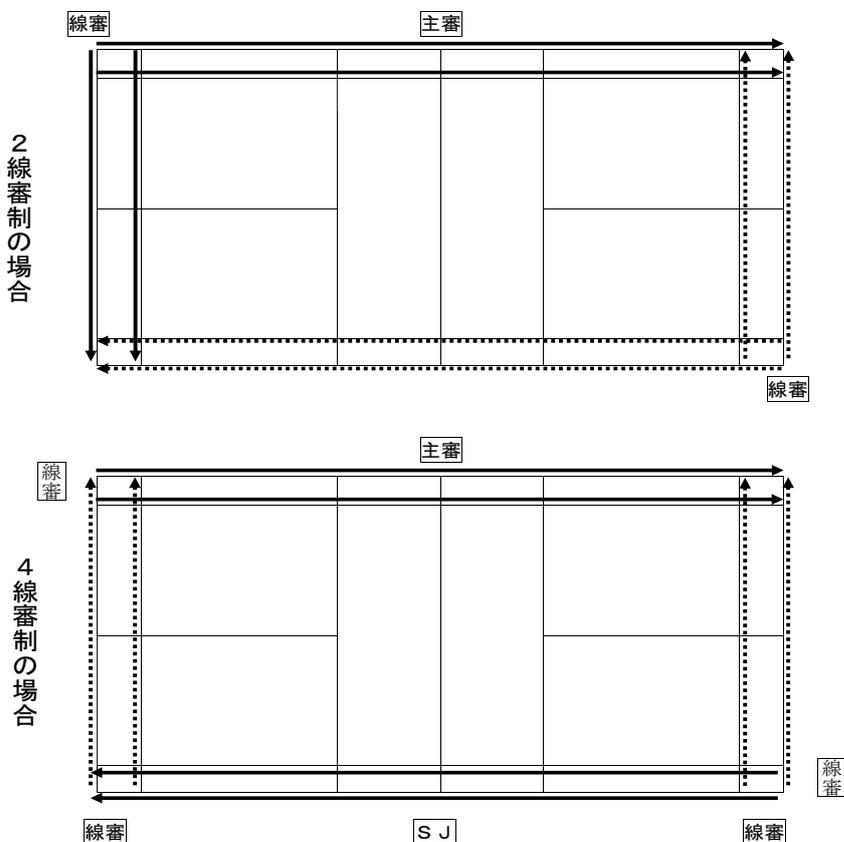
(2) 椅子は担当ラインの延長線上に置く。

(3) バックバウンダリーラインを担当する線審は、バックバウンダリーラインの延長線上の椅子の位置で、ダブルス時は体を動かしロングサービスライン上のシャトルのジャッジも行う。

【線審の椅子の位置】



2. 担当ライン



※ 線審の位置は、左右が逆の場合がある。

【得点表示係】

1. 「試合開始前」

- (1) 審判担当表及びタイムテーブルに従い、担当の試合及び時間等を確認しておくこと。
- (2) 選手が揃うまで所定の位置で起立して待つ。
- (3) 主審より渡された校名・選手名プレートを得点表示器に掲示する。
(学校対抗ではオーダー用紙で確認)
- (4) 主審より選手のエンドを聞き、得点表示器の向きを確認する。
- (5) 準備を終えたら、所定の位置で着席して待つ。

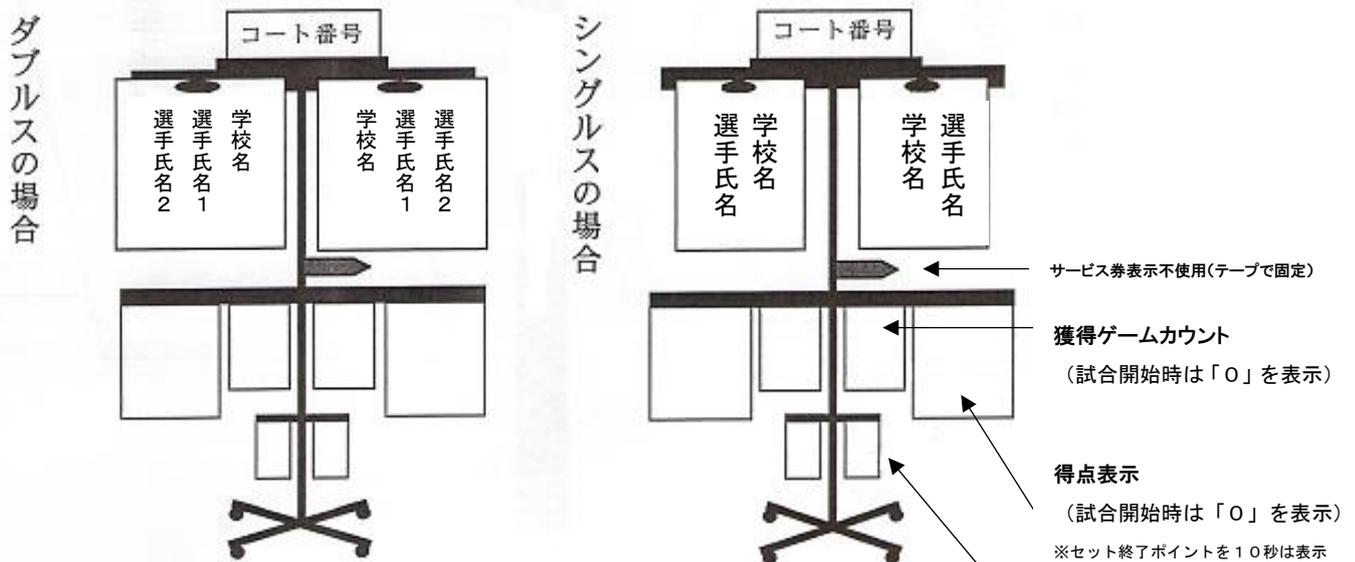
2. 「試合時」

- (1) 得点めくりは、得点を変えた後は本部・観客から得点が見えるように毎回着席する。
- (2) 得点をめくる際は、必ず主審のコールを聞いて確認してから両手で行う。
- (3) 試合中は、ラリーに集中し、ゲームの流れに注意することで、めくり間違いを防ぐ。
- (4) 獲得ゲームカウント・獲得マッチカウント（学校対抗）のめくり忘れに注意する。（下図参照）
- (5) サービス権の指示器は使用しない。
- (6) エンドをかえる時は、得点表示器全体を回転させる。

3. 「試合終了後」

- (1) 試合終了後、得点を元の状態（すべて「0」を表示する）に戻す。
- (2) 得点表示係は、各種表示（種目名、学校名、選手名）を主審の「審判かご」に入れる。出場選手やその関係者が欲しがっても譲渡しない。
- (3) 試合終了後の挨拶時は、主審の反対側に立ち整列する。
- (4) 退場後主審から審判かごを受け取りシャトル主任へ渡す。

～得点表示器～



※ 学校名・選手氏名が記された紙は
そのまま、引っ掛けるようになっています。

【並行試合を担当する審判員への補足】

(1) 主審

- ・学校対抗で並行試合を行う場合、数字の若いコートをもainコートとする。その場合メインコートではない審判員（主審・SJ）はコールがあった際には「審判かご」を受け取りにいかず、直接コートへ集まること。メインコートで展開をする試合担当の主審が「審判かご」を受け取りコートへ来た時点で担当するスコアシー

ト・対戦者名表示（学校名・選手名）を受け取り、試合の流れ等の打ち合わせを簡単に行うようにする。
メインコート以外の審判員は該当試合チームの入場よりも前に入場経路に従って該当コートに出向き待機をする。
（担当コートの線審・得点表示係も同様。主審以外の審判員は着座させて待機）。主審は預かった対戦者名表示（学校名・選手名）を得点表示係へ渡し、コートへ移動した際に掲示をさせていただきます。

ネット高さ、ポスト間などコートに異常はないか点検をし、展開する試合にあわせた線審椅子の位置などの確認をすませておく。ネットの高さを調節する場合、最寄りの線審に補助をお願いする。

- ・試合の進行によって、メインコートでマッチが終了するとは限らない。勝敗が決着するコートの審判員で退場前の挨拶を担当する（まだ次の試合を展開する可能性がある場合はその場で全員が待機をする。開く可能性がない場合は速やかに線審・得点表示係を経路に従って退場させ、主審（SJ）は会場フロアに設置された待機場所待機をする）。退場前の挨拶を行うのは、入場をしたメインコートで行うものとする。その際荷物を持ってネット両脇に整列をさせ、試合結果を報告し、勝者チームより退場をする。

- ・並行試合を終えたスコアシートはまだ試合を展開しているコートの審判台下に置いておく。
- ・先に会場フロアで待機している主審（SJ）は担当試合の勝敗がついたところに壁側を通り退場をして、出入口付近（会場外側）で待機をする。退場し終えた審判員と合流してスコアシート・結果表を整理場所にて完成させる。担当した審判員全員でレフェリー席まで報告に出向き、それ以外の審判員は控所へ戻り主任へ担当終了を報告し待機をする。

(2) 線審・得点係

- ・並行試合で行う学校対抗の場合、数字の若いコートをメインコートとする。開く側（メインコートではない）のコート担当の線審・得点表示係もコートへ集合をする。主審より対戦者名表示（学校名・選手名）を受け取り、主審（SJ）と共に該当試合の選手が集合する前に会場フロアへ移動し、担当コートにて着座をして待機する。得点表示係担当の生徒は、得点表示器に学校名・選手名を掲示しておく。主審がネットの高さを調節する場合、その補助を線審に依頼することがあるので承知しておくこと。
- ・試合の進行によって、メインコートでマッチが終了するとは限らない。勝敗が決着するコートの審判員で退場前の挨拶を担当する（まだ次の試合を展開する可能性がある場合はその場で全員が待機をする。開く可能性がない場合は速やかに経路に従って退場する）。退場前の挨拶を行うのは、入場をしたメインコートで行うものとする。その際荷物を持ってネット両脇に整列をさせ、試合結果を報告して勝者チームより退場をする。
- ・先に退場した線審や得点表示係は会場を出て控室へ戻り線審主任へ担当終了を報告し待機する。

審判力向上のために ～より実力ある審判員を目指して～

試合の主審を行う場合は、単に「ラブ オール、プレー」から 21 点(30 点)までの点数を数えるだけではありません。その過程で起こる様々な問題に対し、速やかにかつ正しく冷静に判断していく能力が問われます。

また、いろいろなところで、主審に判断を委ねられる事例があります。

次に示すのは、試合中に主審の判断が必要な事例です。

インターハイを審判力向上のための舞台と考え、実践的な練習を積み審判力の向上をお願いします。

【主審の判断によるもの】

次のことは選手や監督の判断によるものではありません。自信を持って試合運営を行ってください。

なお、競技区域外はレフェリーの管轄下ですから、その判断や指示に従ってください。

1. 汗拭きの許可をどうするか。(水分補給を含む)

競技規則書には「プレーが中断しない範囲であれば、すばやいたオルの使用や給水が許可されることがある」とあるが、原則としてゲーム中の汗拭きは認めない。競技規則の「プレーの継続」と関連するが、休憩をとることは認められていない。極端に汗をかいている様子もなくゲームの流れを故意に変えるためであると判断されるようなときなどは、「プレーを続けてください」と選手にプレーの継続を促す。

2. シャトルを交換すべきかどうか。

3. サービス時に、サービスが為される前にレシーバーの足が早く動いたかどうか。

4. サービス時に、レシーバーが構えの態勢をとっていたかどうか。

5. 選手が、サービスジャッジや線審に対して、暴言を吐いたかどうか。

6. 選手が線審の判定直前に「アウト」「イン」などと、声やジェスチャー（シグナル）で線審を惑わしたかどうか。ダブルスで自分のパートナーに対して声を発するなど、関わる問題の有無についての判断は主審が行う。

7. サーバー、レシーバーともにそれぞれの体勢に入るのが遅いかどうか。

8. 監督・当該選手からの質問に対する対処ができるかどうか。場合によっては受け付けないことも可。

9. 汗などで床やコートマットが濡れ、モップや雑巾などで拭いた方がよいかどうか。

10. 線審の担当ライン以外は主審が見るが、線審の担当ラインにも注意して判断する。

11. 線審がシャトルを見失い判定できなかった場合は、主審が判定する。主審も判定できない場合はレットとする。

12. 選手が怪我や事故などで、レフェリー（競技役員長）を呼ぶかどうか。

または、そのまま続行させるべきかどうか（痙攣は基本的に続行）

13. インプレー中の助言があったか。また、応援の声と助言との区別は主審が判断する。

14. インプレー中に、隣のコートからシャトルが入ってきたときの判断をどうするのか。

15. インプレー中に、選手の足などがネットの下から出て、相手の選手を妨害したかどうか。

16. インプレー中に、選手のラケットがネットの上から出たかどうか。

17. インプレー中に、選手のラケットや身体などにシャトルが触れたかどうか。

18. 選手同士がにらみ合ったり、拳を相手に振り上げたりしているかどうか。

相手を威嚇したりする不品行な行為と自分自身に対する所謂ガッツポーズかどうかの判断。

19. ゲーム間（120秒）のインターバル残り20秒のコール終了後、次のゲームの「ラブ オール、プレー」をいつコールするのか。

20. 各ゲーム終了後の120秒のインターバルで、監督やコーチなどのアドバイスが、エンドをチェンジした後、新しいサイドで行われているかどうか。

また、アドバイスは2名以内かなど、主審はインターバル中でもよく注意を払うことが求められる。

なお、インターバル中を除きゲーム中にコートを離れて客席などへ行きアドバイスを受けたりすることはできない。

21. プレーをレットにすべきかどうか。

22. サービスコートの間違いがあった場合は速やかに訂正する。

【レフェリー（競技役員長）を呼ぶとき】

1. 選手が怪我をしたとき。(p. 66【試合中の怪我・事故などの取り扱いについて】参照)
2. 選手が監督またはコーチからインプレー中にアドバイスを受けていると判断した場合。
3. コーチにより、プレーが混乱させられたり相手サイドのプレーヤーの注意がそらされたりしていると主審が判断して「レット」をコールした場合。
4. プレー中に選手から主審の判定に質問し、異議を唱えているとき。(必要な場合)
5. コートの設定（ネット、ポスト、コート等）が破損を含め不備になったとき。
6. 主審が選手の不品行な振る舞いに対してフォルト（レッドカード）を宣告したとき。
7. インターバルで時間になっても戻ってこないとき。

※レフェリーコールは審判台上で右手を高く上げ、「レフェリー」に合図をしてください。
レフェリーが気付いていないような場合は、得点表示係を本部に向かわせる。

【警告・フォルトについて】

※フォルト（レッドカード）の場合、必ずレフェリーを呼ぶ。

1. 選手が線審にクレームを付けたとき
→ 「警告」（イエローカード）、程度によっては「フォルト」（レッドカード）
2. ミスをしてラケットを投げる、床にたたきつけるなどしたとき
→ 「警告」（イエローカード）、程度によっては「フォルト」（レッドカード）
3. シャトルを故意に破損させたとき
→ 「警告」（イエローカード）、程度によっては「フォルト」（レッドカード）
4. ミスをしてラケットでネットをたたいたとき
→ 「警告」（イエローカード）、程度によっては「フォルト」（レッドカード）
5. インプレー以外にも大声で相手に対して、威嚇や暴言、ガッツポーズなどした場合
→ 「警告」（イエローカード）
6. 線審の判定前に「イン（アウト）」と線審に対し発言した場合
→ 「警告」（イエローカード）
7. 監督、コーチなどがコーチングシートからインプレー中に「イン（アウト）」とアドバイスをした場合
→ プレーは「レット」。レフェリーを呼ぶ。レフェリーが監督、コーチに「警告」を宣する。
8. 線審に暴言を吐いたとき
→ 「フォルト」（レッドカード）
9. ミスをして得点表示板や審判台、シャトル、かご等を蹴ったとき
→ 「フォルト」（レッドカード）
10. シャトルを打った直後に相手を妨害する言葉をいったとき（「ナイスサーブ」、「ナイスコース」、「イン」など）
→ 「フォルト」（レッドカード）。
11. 主審に暴言を吐いたとき
→ 「フォルト」（レッドカード）